

春インカレ2013資料

2013年度春インカレ実行委員会より日本学連幹事会へ提供された資料は以下の通りです。

【資料一覧】

- 第二回幹事会資料（ICMR2013 実行委員会）
- 添付資料（2012 春インカレについて：平成 24 年度第二回幹事会 提出資料）
- 添付資料（平成 24 年度第二回幹事会議事録より）

2013 年度 春インカレについてのご報告

2013 年度の春インカレについて、下記 2 点ご報告致します。

【1】選手権リレーのコース距離について

今年度のインカレリレーでは、選手権クラスのコース距離を

男子：1－3走等距離

女子：2走のみ短距離

としてコース設定を行います（2012 年度春インカレと同様の方式）。

●理由

選手権リレーの 2 走を短距離とする方式は 2009 年度の春インカレより採用されて
いますが、

- ・ 2 走独自の区間は全パターンで同一のレッグとする必要があり（インカレ実施規則
第 14 条 8 項）、コースプランに制約を受ける
- ・ 2 走に実力が 3 番目の選手を持ってくるケースが大半を占め、戦略の幅が狭くなる
- ・ 地図のパターン数が増え、運営負荷が高まる

などのデメリットがあります。このため原則としては 3 走とも等距離とし、リレーと
しての競技性を確保したいと考えています。

しかし女子の選手権リレーについては、選手を 3 人揃えることが難しいチームが多く、
3 走とも等距離とすると、

- ・ 競技時間オーバーによる完走率の低下を招く
- ・ 選手権リレー出場への心理的ハードルが高くなり、出場校の減少につながる

といった問題があり、ひいてはインカレリレーの盛り上がりを損なう恐れがあります。

以上の理由から男子は 3 走とも等距離とし、女子については引き続き 2 走を短距離と
することが望ましいと判断しました。

【2】リレーの地図置き場について

2012 年度のインカレリレーでは、会場付近に地図置き場を設置することが困難であ
ったため、一般併設クラスの地図については封筒に入れた状態で事前配布としました。

今年度は地図置き場を設置するスペースを確保できる見通しであるため、例年通り全
クラスにおいて（2 走以降の走者に）地図置き場で地図を配布します。

◎添付資料

(1)「2012 春インカレについて」（平成 24 年度第二回幹事会 提出資料）

(2)「平成 24 年度第二回幹事会議事録より抜粋」

以 上

2012春インカレについて

案件1 リレー一般併設クラスにおける地図置き場の廃止

本年度のインカレリレーでは、一般併設クラスの地図置き場を設営できる広いスペースが確保し難いため、一般併設クラスの地図を事前配布とする。選手権クラスでは従来通り地図置き場を設置する。具体的な配布方法は以下のように考えている。

- ① チーム毎に3枚セットとして1つの封筒に入れる
- ② 封筒に大学とチームNoを記し、大学毎に分ける
- ③ リレーの日の朝オフィシャルに取りに来てもらう
- ④ 配布後30分間で封筒のチームNoと中の地図のチームNo及び
3人分の地図があるかどうか確認し、間違いないことを確認してもらう。

※配布後は各大学の責任で地図を管理する。

案件2 選手権リレーの2走短縮の是非について

過去3年間、選手権リレーでは2走のウィニングが1・3走に比べて短い形式で開催され完走率の向上など一定の効果が得られているが、同時に運営上の問題点も発生している。この方式の是非についてもう一度現役学生で話し合ってもらいたい。

2走短縮制度のメリット

- ・完走率の向上

2走短縮制度の問題点

- ・地図のパターン数が増える

地図のパターン数は2走短縮制度では最大27パターンとなる。3人が同一の距離を走る場合の9パターンに比べて非常に多くなっている。これにより地図チェックが非常に複雑になり、運営のミスが発生しやすくなるという問題がある。

- ・2走独自のレグではファシタを作れない

インカレ実施規則 9条 14.8

リレーでは、コントロールは分割され、チームごとに別々に組み合わせられる。全チームが順番は異なっても、全体としては同一のコースを回る。(以下略)

この規約がある関係で、2走短縮型のリレーコースは大きな制約を受ける。2走コースの独自部分ではファシタを作ることができず、全チームの2走が同じレッグを走る区間が生じてしまう。岐阜インカレではME2走は3レッグ連続でファシタのないコースであり、滋賀インカレのME2走に至っては9レッグ連続ファシタなしとなっている。インカレリレーにおいて、このように連続してファシタのないコースで十分な競技性が確保できるのかという問題がある。同様に、1・3走独自の区間でもパターンは2つしか用意することができない。

完走率を保ちつつこれらの問題を解決する案として、3人同一のコースとした上で1人あたりのウィニングを短くするという方法もある。例えば昨年のリレーWEクラスの場合、1・3走のウィニングが45分、2走が35分だったが、これを1～3走まで全て40分のウィニングに設定するという手法である。従来の方法以外にも様々なやり方があると思うので、現役生には活発な議論をお願いしたい。

平成 24 年度第二回幹事会議事録より抜粋

3. インカレ実行委員会から(17:25~)

< 案件 1 リレー一般併設クラスにおける地図置き場の廃止について >

○実行委員会からの提案内容

本年度のインカレリレーでは、一般併設クラスの地図置き場を設営できる広いスペースの確保が難しいため、一般併設クラスの地図置き場を廃止して、封筒に地図を入れて事前に配布する方式をとりたい。選手権クラスでは従来通り地図置き場を設置する。具体的な配布方法は以下のように考えている。

- ① チーム毎に 3 枚セットとして 1 つの封筒に入れる
 - ② 封筒に大学とチーム NO を記し、大学毎に分ける
 - ③ リレーの日の朝オフィシャルに取りに来てもらう
 - ④ 配布後 30 分の中で封筒のチーム NO と中の地図のチーム NO 及び三人分の地図があるかどうか確認し、間違い無い事を確認してもらう。
- ※ 配布後は各大学の責任で地図を管理する。

小見山：選手権の地図置き場ならそれほどスペースを取らないが、併設の地図置き場を作るのはスペースの関係で出来ない。申し訳ないが、これに関しては学生に了承して欲しい。選手権の部に関しては地図置き場を設けることが規約で定められているが、併設に関しては規約がないので問題ない。

大田：配布方法は現段階ではまだ案なので、最終的な方法は要項でお知らせする。

< 案件 2 選手権リレーの 2 走短縮の是非について >

○実行委員会からの提案内容

過去 3 年間、選手権リレーでは 2 走のウイニングが 1・3 走に比べて短い形式で開催され完走率の向上など一定の効果が得られているが、同時に運営上の問題も発生している。この方式の是非についてもう一度現役学生で話し合っただけで欲しい。

2012 年度インカレミドル・リレーの実行委員会から、リレー一般併設クラスにおける地図置き場の廃止と選手権リレーの 2 走短縮に関する提案がなされた。リレー一般併設クラスにおける地図置き場の廃止に関しては、反対意見はなく了承された。選手権リレーの 2 走短縮に関しては、議論がなされ、各大学にアンケートを取って、それを参考に実行委員会で判断することとなった。

2 走短縮制度のメリット

- ・完走率の向上

2 走短縮制度の問題点

- ・地図のパターン数が増える

地図のパターン数は 2 走短縮制度では最大 27 パターンとなる。3 人が同一の距離を走る場合のパターンに比べて非常に多くなっている。これにより地図のチェックが非常に複雑になり、運営のミスが発生しやすくなるという問題がある。

- ・2 走独自のレッグではファシタが作れない

インカレ実施規則 9 条 14.8

「リレーではコントロールは分割され、チームごとに別々に組み合わせられる。全チームが順番は異なっても、全体としては同一のコースを回る。(以下略)」

この規約がある関係で、2 走短縮形のリレーコースは大きな制約を受ける。2 走コース独自部分ではファシタを作ることができず、全チームの 2 走が同じレッグを走る区間が生じてしまう。

岐阜インカレでは ME2 走は 3 レッグ連続でファシタのないコースであり、滋賀インカレの ME2 走に至っては、9 レッグ連続ファシタなしとなっている。インカレリレーにおいてこのように連続してファシタのないコースで十分な競技性が確保できるのかという問題がある、同様に 1・3 走独自の区間でもパターンは 2 つか用意することができない。

完走率を保ちつつこれらの問題を解決する案として、3 人同一のコースとした上で 1 人あたりのウイニングを短くするという方法もある。例えば昨年のリレーWE クラスの場合、1・3 走ウイニングが 45 分、2 走が 35 分だったが、これを 1~3 走まで全て 40 分のウイニングに設定するという手法である。従来の方法以外にも様々なやり方があると思うので、現役生には活発な議論をお願いしたい。

小見山：3 年前から選手権リレーでは、2 走短縮でリレーが行なわれている。去年、学生に行ったアンケートでは、学生の 8 割程度が 2 走短縮制度に賛成している。(インカレミドル報告書参照)しかし、この制度には問題がある。問題の 1 点目としては、地図のパターン数が増えることがある。

2 走を短縮しなければ、9 パターンで済むが、2 走を短縮すると最大 27 パターンになる。実際は、大学数に合わせて 17 前後のパターンで運営しているが、以前に比べて地図のパターン数が増えている。これに関しては、運営の手間が増えるだけで、運営者でしっかりとチェックすればいいとも言えるが、昨年の男子選手権リレーで地図のパターン分けに問題が生じたのには、この影響もあった。運営としてはリスクのある形をとりたくない。

もう一つの問題点は、2 走独自のレッグではファシタを作れないことがある。1,3 走と異

なる 2 走だけの部分はパターン分けができない。そのため、岐阜インカレでは ME2 走は 3 レッグ連続でファシタのないコースがある。さらに、滋賀インカレでは 9 レッグ連続でファシタの無いコースとなっていた。こんなにファシタがないのは競技的に問題である。

滋賀インカレの競走もやりたくはなかったと思うが、2 走独自の区間を長くしないと難しいテレインだったので、難しいエリアに入れずに、リレーとしてのスピード感を保ったコースにしつつ、ウイニングを 35 分でまとめるという制約のもとでは、1 走・3 走と共通の区間を幅広く使うことができなかつたのだと思う。

岐阜や日光のようなテレイン全域で自由に回せるテレインなら、2 走の独自区間をできるだけ少なくすることができるが、去年の滋賀のような制約の強いテレインでは、コースの面白さを確保するためには、2 走独自の区間を長くせざるを得ない。具体的なことは言えないが、2012 年度のインカレでも滋賀インカレと同様な問題が発生するのではいかと思う。

競技責任者としては、公正なファシタがあり、これぞリレーだという面白いコースを提供したい。しかし、2 走短縮のままでは、どちらかを守ろうと思うと、どちらかを捨てるを得ない。私達としては、1 走から 3 走まですべて同じ距離にして、ファシタの問題を解決し、一人ひとりの同じウイニングで面白いコースを組めば皆さんに満足してもらえると考えている。

しかし、前の制度に戻すと完走率が低下してしまう恐れがある。特に女子の方が厳しい。これに対して、1~3 走の距離を統一し、全体のウイニングも短くするという方法もある。インカレの規約では、実行委員会が自由に 2 走を短縮しないことを決定してもよいが、アンケート結果では 2 走短縮が学生に支持されているので、学生の意見も聞きたいと思い、提案した。

寺田 : 運営のミスが発生するのは、地図の作成がギリギリになったことが原因であって、9 パターンに戻してもミスを防げるか分からないのでは。

大西 : 山川氏が 1 人で引き受けている印刷の仕方にも問題がある。

小見山 : 運営の方式や山川さんとの仕事の進め方も考えていかなければならない。

太田 : 実行委員会としてもその点は理解しており、山川さんと交渉する。

寺田 : 2 走短縮をするか否かについては、賛成・反対の両意見があるので、学生全体にもう一度アンケートを取る必要があるのではないか。

池田 : アンケートを取ってから決定しても大丈夫か。

小見山 : 今月中にアンケートの結果がわかれば、まだまだ修正は可能。

高橋 : 完走率の問題は女子でだけ起きているのならば、女子だけ 2 走短縮にして、男子は全て同じ距離にしては。

小見山 : 女子の 2 走ではファシタが無いようなレッグが続いても許容する？

高橋 : 滋賀インカレで 9 レッグ連続ファシタ無しというのは男子リレーで、女子リレーでは少ないですね？

小見山：女子では連続するのは 4 レッグぐらい。

高橋：男子だったら、完走率は女子より高いのだから、1~3 走とも同じパターンでもいいが、女子では完走率の問題が発生するのなら、女子だけは 2 走を短くするままの方がいいのでは。

太田：男女別々の方法でやるのは不可能ではない。

寺田：難易度を調整して、完走率をあげることはできない？

小見山：できないことはないが、簡単にしすぎてもいいのかという問題もある。

大西：去年の滋賀インカレではスピードが出しにくいテレインなので差が開きにくかった。過去に全然ファシタの無いようなインカレリレーもあったが、テレインによっては差が開きやすいということもある。

小柳：女子は短いほうがいい。3 人集めるのが難しい大学も多いが、1 年生を含めれば、3 人揃うというような状況で 2 走が短いならば出しやすい。女子では中盤回りからレベルがばらついているので、共通レッグが多くても差は開くと思う。

小見山：女子のウイニングを全て短くするのはどう思う？

小柳：全て同じウイニングだと 3 人揃っていないと出しにくいと思う大学もあると思う。

みんな、同じウイニングだと渋ってしまう人がでると思う。

小見山：実力の低い人だと、他の人と距離が同じだと参加に対する心理的障壁が高くなる？

小柳：そういうこともあると思う。

高橋：やっぱり、女子の競技人口が少ないことを考えると 2 走は短いままでいいと思う。男子は、パターン分けをして面白くしたいというのも同感なので男子は取り入れていいかなと思う。

田村：去年の滋賀インカレの結果を見ると、男子は全て同じウイニングでもいいのではないかなと思う。

高橋：男女とも短くするか、女子だけ短くするか、両方とも同じ距離にするかの 3 パターンでアンケートを取っては。

小見山：この場の雰囲気としては、ファシタのことはあまり気にしない人が多い？

高橋：競技中はパターン分けが少なくても感じにくい。

池田：走っているときは気にならない。どこかでは振ってあるだろうと思って走る。

寺田：アンケートを取って 2 走が短いほうがいいという意見が出たらどうする？

小見山：アンケートを考慮するが、最終的な決定権は実行委員会にある。我々としては同じ距離にしたい。

小林：たとえば、女子のトップと他の多数の差が開いているのが問題なら、女子 1 人だけ長くするという発想もあるのでは。実行委員会も他の案を考えみては。

小見山：とりあえずアンケートは取ってもらう。実行委員としての案を示した上で、それに対して意見を募集するというのはいいかもかもしれない。

池田：アンケートは実行委員会に作成してもらえる？

太田：至急、考えてみます。

平野 : 男子のリレーに対しては男子の意見、女子のリレーに関しては女子の意見を求める？

太田 : そうする。至急アンケートを作るので、できれば 10 月中に返信をもらいたい。

(18:07 小見山、退席)

以 上

2013年度第二回日本学連幹事会資料

2012年度春インカレ報告書における将来への提言、イベントアドバイザー報告の今後の検討課題についてのフィードバック

2013年9月14日

文責：幹事長 山本淳史

毎年インカレ実行委員会が将来への提言を書いているのに、学生がなにも振り返らないのはもったいない、学生からもなにか提言できれば、より良いインカレにできるのではないかと、ということで、今回少し振り返ってみることにしました。まず幹事会として協力できそうな3項目を以下に抜粋し、その下に加盟員の意見を聞いてみたい項目2点を抜粋しました。

《幹事会として協力できそうな項目》

1. 【一般クラスリレーの地図事前配布について】

今年のリレー一般クラスについて地図の事前配布を実施致しました。今年会場回りに一般クラスも含めた地図置き場を作成するスペースがなかったため、事前配布する方式を取りましたが、地図を事前配布とすることでこれまで200チーム、400人近い選手（1走を除いた人数）が地図置き場から地図を取っていた方式に比べ、地図取り違いのリスクは大きく減少したと考えております。今年初めての試みではありましたが、地図配布で大きな混乱がなかったことから、来年以降も事前配布方式の採用を前向きに検討する余地があるかと思えます。ただ事前配布とする場合でも地図配布誤りのリスクは依然として存在するため、来年度以降地図の事前配布を実施する場合は、地図封入時、配布用封筒に地図を入れる時など、各工程で入念にチェックを行い、地図配布誤りのリスクを減らすよう努めて頂ければと思います。

一方、選手権クラスについてはインカレ実施規則に則り、従来通り出走後に地図を取る運用としました。この規則は地図を事前に見るといった不正の防止という観点からこのような規則になっていると考えますが、一般リレークラスでの地図事前配布に伴い、選手権クラスでの事前配布についても検討する余地があるのかもしれませんが、今年運営した限りでは、選手権クラスのみならず地図置き場の作成等も含めて、そこまで大きな工数ではないとの印象を持っておりますが、事前配布とすることで地図取り違いのリスク減や、地図監視用の役員が不要になることなど、運営上のメリットも少なからず出てきます。

2. 【インカレ実施規則の見直し】

インカレは、インカレ実施規則に則って実施されるが、記載が曖昧な箇所や現状にあわなくなっている箇所がある。例えば「25.5 スタート前の競技者とチームオフィシャル以外は、ウォーミングアップエリアに入れない（前後略）」とあるが、競技会場の一角をウォーミングアップエリアとしている場合の適用は難しい。この他、携帯電話の利用の是非、前述の地図事前配布等において、実施規則の見直しが必要であるように思う。

3. 【継続的なインカレの開催に向けて】

オリエンテーリングの競技の特性上、大会開催地区の近隣住民の方々と友好的な関係構築というのは必須であると考えております。代表者ミーティングにてお伝えしましたが、今年、近隣住民の方よりバスストップから会場まで参加者が移動する際に広がり過ぎているとお叱りを受けました。この部分は実行委員会側で参加者に周知が不足していた点、役員を配置していなかったなどの落度もございましたが、参加者の方々にも道路を歩く際は道路にはみ出さないように歩くといった一般的なマナーの部分は常に念頭において大会に参加して頂きたいと思っております。この部分はインカレ以外のオリエンテーリング大会でも共通に言えることであり、私自信も今後別のオリエンテーリング大会に参加する際には意識したい事項と思っております。

《加盟員の意見を聞いてみたい項目》

4. 【リレー一般の部の1走スタート】

今回のリレー一般の部の1走スタート時の整列は、前から順に学校コード毎とした。しかし、代表者ミーティング時にとある学校から、学校コード順は公平性に欠けるとの問題提起があった。確かに、スタートまでの誘導の道幅が狭いと、後ろに並んでいる学校は追い越すことができず出遅れる可能性がある。選手権の部は各校1チームであるため、昨年度の順位で割り振ることができるが、一般の部は複数チームがあることから、ルール決めが難しい。加えて今回は本番直前の問題提起であったことから、方式を変更せず当初の通りの整列順とした。次年度以降は是非検討して欲しい。参考までに、今回出た案を以下に列挙する。

- ・前年度順位により決める（上記複数チームの問題があり、さらに細かくルールを決める

必要がある)

- ・隔年で、学校コードの逆順に整列する（過去にこの形式で実施していたインカレあり）
- ・学校毎に縦に整列する
- ・整列順を決めずに早いもの勝ちなどで並ぶ
- ・抽選にする

また、せっかく出してもらった意見も、今回のように直前になってしまっでは対応が難しい。大会公式 Web サイトにも問い合わせ先を記載しているが、意見があれば実行委員会に意見を出して欲しい旨を、公式に通知する等の対応を検討して欲しい。

5. 【インフォメーションデスクでの資料配布について】

ミドルの日の夜にインフォメーションデスクにて当日のラップ配布を行っております。携帯等を通じて LapCenter 等の Web サイトからミドルのラップを見ることが出来ることから、資料印刷の手間を省く上で、来年以降は廃止しても問題ないと思っております。

1. 【一般クラスリレーの地図事前配布について】 と
2. 【インカレ実施規則の見直し】 について

インカレ実施規則より抜粋
(ロング,ミドル)

25.2 競技者はスタートと同時に自分で地図を取る。

(リレー)

25.3 リレーでは、第1 競技者はスタートと同時に、以降の競技者はスタート後の地図の支給地点で、自分で地図を取る。

25.5 すべての競技者は、最低 20 分のウォーミングアップをする時間を取れる。スタート前の競技者とチームオフィシャル以外は、ウォーミングアップエリアに入れない。ウォーミングアップエリアは、スタートのできる限り近くに設定する。

第 37 条 改正

37.1 本規則の改正は総会の議決による。

25.5 について

(案)・「ウォーミングアップエリアが会場から離れている場合は、」 と付け加える。

25.3 について

(案)・25.3 を削除して、25.2 の上の「(ロング,ミドル)」を削除する。

(案)・そのまま。

●携帯電話に関して

春インカレ 2012 要項 3 より抜粋

2.5.4 その他

・ミドル・リレー(3月9日、10日)とも、テレイン内(競技会場含む)での携帯電話、PHS、各種通信機器の使用を原則禁止する。やむを得ず使用する場合は本部の許可を得た上で使用すること。

春インカレ 2011、2010、2009 でも要項 3 に同様の記載あり。

秋インカレ 2011、2010、2009 は、要項 3 には携帯電話に関する記載なし。←なぜ??

(秋インカレ 2012 は HP から要項 3 が入手できなかったので不明)

携帯電話に関して

(案)・『大会当日(ロング、ミドル、リレー)は、テレイン内(競技会場含む)で携帯電話、PHS、各種通信機器を原則使用してはならない。やむを得ない場合は、実行委員会本部の許可を得た上で使用してよい。』のような規約を作る。

(案)・規約は作らない。

3. 【継続的なインカレの開催に向けて】について

何らかの方法で参加者に意識させる。例えばインカレ前日の総会でふれる、メーリスで流す、開会式で話すなど。幹事長の名義で呼びかけるのが良いか。

4. 【リレー一般の部の 1 走スタート】について

(案)・加盟校にアンケートを取って、その結果を実行委員会に送る。

(案)・加盟校に、意見がある場合は実行委員会に直接言うように促す。

5. 【インフォメーションデスクでの資料配布について】について

春インカレ 2012 要項 3 より抜粋

2.4.7 インフォメーションデスク [20:00~21:00]

・ 8 日、9 日の 20:00~21:00 の間、ホテル清晃苑にインフォメーションデスクを設置する。

・ インフォメーションデスクでは、大会に関する問い合わせ、トラブル、不慮の事故への対応等の業務を行う。トラブル、不慮の事故が発生した場合には、直ちに連絡し指示を受けること。

・ インフォメーションデスク終了後は、2.5.3 に示す連絡先に連絡すること。

・ 9 日は選手権 A 出走選手のラップ表及びリレー選手権の部オーダー一覧、リレーで使われるコントロール位置説明の一覧表を配布する。各校の代表者は開設時間内に取りに来ること。

ラップセンターや大会公式 web サイトに記載することで、ミドルの日の夜にインフォメーションデスクからラップなどを配布するのを廃止してもよいか。

(案)・加盟校にアンケートを取って、その結果を実行委員会に送る。

技術委員会活動報告

2013/09/14(文責：大西)

1、WUOC2014

来年度はチェコにて WUOC が開催されます。

すでに HP は立ち上がっており、プログラムも公開されております。

<http://www.wuoc2014.cz/>

来年度はお盆の時期になります。

ユニバーに関しては日本学連からの派遣ですので、

ぜひみなさんチャレンジしてみてください。

選考基準に関しては9月中に公表予定です。

2、学連合宿について

第1回日本学連合宿を来週富士(9/21-23)にて行います。

第2回については11/23,24に三重県の青山高原周辺にて開催予定です。

7人リレー対策に技術を磨きましょう。(四季のさと使用予定。)

第3回は例年通り山リハリレーの週に行う予定をしております。

3、インカレロングイベントアドバイザーについて

10月に行われるインカレロングのイベントアドバイザーが決定しました。

静岡 OLC の田濃邦彦さんです。詳しくは日本学連の ML を参照ください。

4、講習会について

全日本リレー前日に地図調査講習会を行います。JOA の地図調査委員会の方とコラボして行います。今回は地図調査を始めるにあたっての初歩的な内容からなっていますので、これから地図調査にかかわる方、GPS や最新の下図の作成の仕方を知りたい方はぜひ参加してみてください。地区代表幹事は宣伝をよろしくお願いします。

あとコースプランナー講習会を開催できないか現在検討中です。

5、シード選手選考について

インカレロングのシード案を理事会へ推薦しました。

6、規約改正について

インカレ実施規則第 34 条の第 2 項、第 7 項が現実と乖離しているため改正の必要があります。第 2 項に関しては今回インカレロングのアドバイザーを技術委員会外部から技術委員に加入していただきアドバイザーに選ばれたが、最近技

術委員会内からアドバイザーを出せなくなってきたため仮入会のような形で加入していただいています。今回の田濃さんに関しては選出の際に技術委員会の仕事が回ってくることで負担が増えることへの懸念が聞かれました。特に現状そのような形で技術委員会へ入っていただいた方に仕事を割り振るようなことはありませんが、その事によるアドバイザーへの障害の高さを取り除くためにも外部からアドバイザーを選出できるような規約に改正する必要があると思います。ぜひ幹事会の皆さんの意見を聞かせてください。意見をもとに次回以降に改正の規約の文章を考えたいと思います。第 7 項に関しては前任の西脇さんが規約改正の際に追加したのですが、毎年インカレのイベントアドバイザーの交通費は予算として技術委員会に計上されており矛盾しております。（おそらく予算にあることを忘れたまま条項を追加してしまったようです。）特に、ロングは主催が学連でないことがほとんどであるため主催団体に交通費を強制的に支払わせるのは理不尽であるためこの項の削除が必要であると思います。

（具体例としては、私が大阪 OLC35 周年記念大会のアドバイザーを務めた時に候補者がいなく関東に住みながら関西の運営に加わることになり、交通費が高くなりそれを大阪 OLC が支払わなければならなかった。）こちらは基本削除するだけです。

2013年度関東学連規約改正まとめ

2013年9月14日

文責：関東学連幹事長
佐藤大樹（東工大34期）

○はじめに

関東学連の規約を改正したので、日本学生オリエンテーリング連盟規約第6条に則って、日本学連総会の承認を得るため、ここに報告します。

4/3、5/25、7/6の三日間の関東学連総会にて変更のあった規約についてまとめます。
ここでは詳しい内容より、要点をまとめておきます。

- ① 『日本学生オリエンテーリング選手権ロング・ディスタンス競技関東地区代表選手選考会実施基準』（＝ロングセレ規約）及び『日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技関東地区代表選手選考会実施基準』（＝ミドルセレ規約）について

第五条 推薦立候補への判断の形態

変更点：関東学連総会→技術委員

理由：学生の推薦を学生が行うのは、個人的な感情が入り込むこともありうるから。

第六条 委任状による投票

変更点：削除

理由：第五条変更により自動的に。

- ② 『日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技関東地区代表選手選考会実施基準』（＝ミドルセレ規約）について

第八条 Aエリート通過基準

変更点：曖昧な基準であったので、「事実が証明可能なもの」を基準として変更。

理由：不明瞭な部分をできるだけ排除するため。

第九条 Bエリート通過基準

変更点：第九条第二項削除。すなわちBエリート未出走の理由及び不通過の理由の削除。

理由：Bエリートは競技的実績だけで十分ではないかという結論に至った。

以上

日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技

関東地区代表選手選考会に伴う推薦立候補に係る規約

第一条 目的

この基準は日本学生オリエンテーリング選手権ミドルディスタンス競技大会（旧インカレショート、以下インカレミドル）関東地区代表選手選考会（以下ミドルセレ）で、インカレミドルでの選手権クラス出場権を得ることが出来なかった関東学連加盟員各位の救済措置としての推薦立候補について、その詳細を定めたものである。

第二条 推薦通過の対象

推薦通過の趣旨目的は、次年度インカレミドルの A エリートにおける学連枠を確保することが見込まれる関東学連加盟員に、B エリート出場機会を確保すること、及び、インカレミドル A エリートにおいて卓越した成績を収めることが見込まれる関東学連加盟員が、やむを得ない事由によってセレクションを通過出来なかった場合に、A エリートへの出場の可能性を残すことである。ゆえに、A・B 双方の選手権クラスへの推薦枠を以下に用意し、併類は妨げない。

第三条 推薦立候補について

- 1 推薦立候補者は、セレクションの直後に周知される立候補書類に必要事項を記入し、指定された期限内に、指定提出先に提出しなければならない。
- 2 推薦立候補の受け付けは、セレクションの日から5日以内の、幹事会が定める日時とする。
- 3 幹事会は、立候補書類を受理したらただちに、各学連加盟員を通して関東学連加盟員各位に対して、当該立候補書類を周知しなければならない。

第四条 推薦通過者の枠数について

- 1 推薦通過者数は、【日本学生オリエンテーリング選手権ミドル・ディスタンス競技・競技者数及びその配分に関する規則】の3条・4条によって当学連に与えられた地区学連枠の人数の、 $1/10$ とする。小数点以下は切り捨てとする。
- 2 当学連に与えられた地区学連枠の人数が10名に満たない場合は、一律に推薦枠を1つ用意する。

第五条 推薦立候補への判断の形態

- 1 推薦通過の可否は、**技術委員会**の議決による。この**会議**は、第二条に定める立候補書類の周知後、相当期間後に開催されることが望ましい。
- 2 推薦立候補者は、有効投票のうち過半数を獲得すれば、通過が認められる。
- 3 **削除**

4 推薦立候補者は、その通過の可否を決める**会議**に出席し、自身の通過の妥当性を訴えることができる。立候補者の請求があれば、**会議内**で事情説明のための時間を設けなければならない。

5 第四条に定められた枠数を超えて通過者を認めることはできない。当該枠数を超えて推薦通過が認められる者が生じた場合は、改めてどの推薦立候補者が通過にふさわしいかの決選投票を行うものとする。

6 投票の結果、賛否同数だった場合は、**技術委員長**がこれを判断する。

7 推薦立候補への**会議**の判断の結果、第三条に定める推薦枠を満たさなかった場合、若しくは立候補者が推薦枠に満たなかった場合、セクションで選考されなかった者のうち、順位順に繰り上がるものとする。

第六条 削除

第七条 通過の可否の判断基準について

1 推薦立候補者、各有権大学および**技術委員**は、以下第八条・第九条に定める判断基準に則って、推薦立候補および投票行動を行うものとする。

2 判断基準は、推薦立候補者がセクションに欠席した理由(以下、「未出走の理由」)、セクションに出走したが不通過だった理由(同「不通過の理由」)、そして推薦立候補者のオリエンテーリングの競技的実績の3点について、それぞれ定める。

3 以下、特別に定めるところがなければ、**技術委員**が判断基準を満たす推薦立候補者に反対票を投じることも、判断基準を満たさない推薦立候補者に賛成票を投じることも妨げない。

第八条 A エリート通過基準

1 A エリートへの推薦立候補者は、同条3項に定める判断基準と同条4項に定める判断基準の双方を満たすことが、強く望まれる。

2 A エリートへの推薦立候補者が基準を満たす場合には、有権大学が反対票を投じるには、正当な理由を付さねばならない。ここで「正当な理由」とは、社会一般的に見て著しく公平を害さない程度であれば足りるとする。ただし、基準を満たさない立候補者に賛成票を投じることは妨げない。

3 未出走の理由および不通過の理由の基準

① 未出走の理由を以下に定める。以下のいずれかを満たすと、基準を満たすと認定する。但し、いずれの場合もそれを証明する書類等が必要である。

- ・文科省指定の出席停止の疾患にかかった場合。
- ・セクション当日に事故にあった場合。
- ・3親等内における冠婚葬祭のように社会的にセクションより重要と思われる行事があった場合。

② 不通過の理由を以下に定める。以下のいずれかを満たすと、基準を満たすと認定する。

- ・レース中に負傷者を発見して、その救助に当たり、**救護所等に付き添った場合**。
- ・レース中に本人の過失なく、地元の方とのトラブルになった場合。

③ 以上に準じる相当な理由があれば、立候補者は自薦理由として立候補書類に記載して良い。ただし、その場合はあくまで自薦理由の一つとし、基準を満たしたとは認定しない。

4 オリエンテーリングの競技的実績に関する基準

① 前年度インカレミドル A エリートに出走し、当時1～3年生の中で上位10名に入り、

- 且つ同年度インカレロング選手権クラスに出走し、10位以内に入る者。
- ② 男女ともに、①の基準に服する。
- ③ 以上に準じ得る相当の実績があれば、推薦立候補者は、自薦理由に追加して良い。ただし、その場合はあくまで自薦理由の一つとし、基準を満たしたとは認定しない。

第九条 B エリート通過基準

1 B エリートへの推薦立候補者は、同条2項に定める判断基準と同条3項に定める判断基準の双方を満たすことが望まれる。

2 削除

3 オリエンテーリングの競技的実績に関する基準

- ① 男子
- ・前年度インカレミドル A エリート出場。
 - ・前年度インカレミドル B エリートで当時1～3年生の中で上位15位以内。
 - ・同年度インカレロング選手権50位以内または L クラス各3位以内。
- ② 女子
- ・前年度インカレミドル A エリート出場。
 - ・前年度インカレミドル B エリートで当時1～3年生の中で上位10位以内。
 - ・同年度インカレロング選手権20位以内または L クラス3位以内。
- ③ 男女ともに、以上の3つの内、一つでも満たせば基準を満たしたと認定する。
- ④ 以上に準じる相当な理由があれば、自薦理由に加えることは妨げない。

第十条 修正

この規約の修正には、関東学連加盟校の過半数の賛成を必要とする。

平成22年 2月16日制定

平成24年12月 1日改正